

文化的・社会的貢献活動(その1)

■ 職場体験学習・インターンシップ

当組合は中学生・高校生を対象にした職場体験学習に協力しています。令和5年度は6月～7月に竹原支店・向洋支店の2店舗で実施し、合計3名を受け入れました。竹原支店では6月5日(月)より5日間、竹原市立竹原中学校の生徒1名を受け入れ、お札の数え方、入金等の端末オペレーションなどの業務を体験していただきました。また、向洋支店では7月4日(火)より3日間、広島市立大州中学校の生徒2名を受け入れ、後方事務や窓口対応などの業務を体験していただきました。さらに、8月2日(水)から3日間、広島県立呉商業高等学校からのインターンシップ1名を安浦支店で受け入れ、後方事務や窓口対応などの業務を実習していただきました。

これからも学生のキャリア形成の視野を広げ、将来の進路選択に役立つ機会を提供していきます。



■ 模擬面接に竹原支店協力

令和5年9月8日(金)、竹原商工会議所(竹原市)が主催する模擬就職面接に協力し、竹原支店長が面接官を務めました。これは地元の高校生の活躍を地域で後押しする取り組みで、広島県立竹原高等学校3年生の7名が面接に臨みました。面接は1名を2名が対応する形で行われ、模擬面接後に感想やアドバイスなどをフィードバックし、質疑応答を行いました。面接官を担当した支店長は2名と面接し、「初対面の大人相手で緊張していたと思いますが、しっかり伝えようという意欲を十分に感じました。今日の経験を活かして就職試験に臨んでほしい」とコメントしています。高校生の就職希望者は少子化と進学希望者増加により減少傾向であるため、人手不足の地場企業は採用意欲が高まっています。これからも地域を支える若い世代の育成に協力していきます。



■ 広陵高校の応援懸垂幕の掲示

第105回全国高校野球選手権大会で甲子園出場を決めた広陵高等学校(広島市安佐南区)を応援するため、安支店ではお祝いの懸垂幕を令和5年7月31日(月)に掲げ、地域の皆さんと一緒にエールを送りました。本大会での初戦は快勝。3回戦は手に汗握る延長戦となりました。4年ぶりの通常開催となった甲子園で、懸命に戦った球児たちに感動しました。これからも皆さまとともに地域を盛り上げていきます。



文化的・社会的貢献活動(その2)

■ グラウンド・ゴルフ大会に向洋支店、東雲支店協力

令和5年6月12日(月)、向洋支店が主催する「グラウンド・ゴルフ大会」を東青崎公園(広島市南区)で開催しました。当日は6月にもかかわらず、真夏のような暑い日でした。合計96名が参加し、まだまだマスクを着用しているプレーヤーも多く、顔の約半分しか見ることができませんでしたが、真剣勝負の中にも笑いや喜び合う姿があり、近所に住む顔なじみの皆さんとスポーツを通して過ごす、楽しい一日となりました。

また、7月15日(土)には、東雲支店が協賛する「第10回ふれあいグラウンド・ゴルフ交歓大会」が東雲本町公園(広島市南区)で開催されました。当日は梅雨シーズンでありながらも、最後の入賞式の時ににわか雨が降った程度で、曇り空のおかげで絶好のプレー日和となりました。支店からは支店長とともに職員2名が参加。地元の方々と談笑しながらプレーを楽しみました。

これらの大会の参加者には、取引先も多く、地域貢献はもちろん、フェイス・トゥ・フェイスの関係づくりにもなっています。これからも地域を応援する取り組みを積極的に行っていきます。



■ コイン通り秋夜市に五日市支店協力

造幣局に面した約1.5kmの通称コイン通り(広島市佐伯区五日市)で、令和5年9月16日(土)、「コイン通り秋夜市」が開催され、五日市支店の職員3名が協力しました。「ゆかたの着納めしん祭」と銘打っていることもあり、当日は浴衣姿の人たちで商店街はにぎわいました。

職員は公園で行われたイベントのくじ引き係を担当するなど、祭りの運営のお手伝いに汗を流しました。今後も、地元の皆さんと協力しながら、地域に貢献していきます。



■ 二百廿日豊年市民祭に廿日市支店協力

秋の始まりを告げる廿日市市の風物詩「二百廿日豊年市民祭」が、令和5年9月9日(土)に開催され、廿日市市中央市民センター及び周辺商店街は屋台がズラリと並び、多くの人でにぎわいました。

廿日市支店は商店街角地の好立地にあり、祭りの日は金融機関の休業日。支店の駐車場を駐輪場として提供するとともに、支店職員は子どもたちに簡単なクイズを出し、答案を回収してお菓子をプレゼントするイベントをお手伝いし、にぎやかに楽しく交流しました。これからも地域を盛り上げる取り組みを実践していきます。



■ 江波漕伝馬に江波支店職員参加

厳島神社の「管絃祭」は毎年旧暦の6月17日に行われています。コロナの影響で4年ぶりに行われた令和5年8月3日(木)、御座船を曳航する江波町伝馬船に江波支店職員が乗船しました。櫂の漕ぎ方や盆踊りなど約1か月間の練習を経て迎える祭りの始まりは前日8月2日(水)の「川上り」から。午前5時30分、江波沖から出発し、本川を上ってお世話になった各所へ挨拶回り。そして次の日、本番の管絃祭へと。荘厳な雰囲気にも包まれた中、早朝から夜中までの長い一日を過ごしました。最後は15日(火)、江波港での「火祭り」で終わりました。参加した職員は、「伝統芸能を通して、多くの人と息を合わせ一つのことをやり遂げるすばらしい経験をしました」とコメントしています。

市の重要無形文化財に指定され、また水産庁主催「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に県内で唯一選ばれた「江波漕伝馬」。地域の伝統文化が末永く受け継がれていくよう、これからも応援していきます。



■ 夏を告げる新庄夜市に大朝支店協力

令和5年7月15日(土)、北広島町で恒例の「第40回新庄夜市」が開催され、大朝支店職員も参加し、祭りの盛り上げに協力しました。コロナ禍の影響で4年ぶりの開催となった今回も、新庄学園通り300mの区間に約50店の屋台が並び、特設ステージでは書道パフォーマンスや神楽のほか、北広島町のイメージキャラクター花田舞太郎も登場し、会場を沸かせました。

参加した2名の支店職員は、「コロナ禍を経て、大朝の町にこんなに人が集うことがうれしい」と町に活気が戻ってきたことを喜んでいました。大朝地区を代表するこの夏祭りは、地域の人々の心をつなぐ大切なイベントです。これからも、地元へ寄り添い、地域おこしに協力していきます。



■ 稲生神社夏越祭に駅前支店協力

令和5年7月20日(木)・21日(金)、稲生神社(広島市南区)で夏越祭が行われ、駅前支店が協力しました。夏越祭は、今年たまった穢れを祓い、残りの半年を無病息災で過ごすようにお参りするお祭りです。コロナ禍により4年ぶりの開催となった今回も、稲生神社横の道路を歩行者専用道路とし、飲食、遊具、似顔絵コーナー等が設置され、多くの人でにぎわいました。支店長を含め5名の職員が青いTシャツを着用し、2日間にわたって子どもたちのゲームの運営・管理をお手伝いしました。職員にとっても、地域に密着していることが実感できる一日となりました。今後も、地元の皆さんと交流を深めることで、地域に貢献していきます。

